

# 決算説明資料

2024年12月期 第3四半期



2024年11月13日

東京証券取引所 スタンダード 5216



株式会社倉元製作所

KURAMOTO



# 目次

## 会社概要

2P

- ・ 会社概要
- ・ マネジメントチーム
- ・ 倉元製作所 技術開発の歴史
- ・ 事業拠点

## 2024年 第3四半期決算 ※ 8P

- ・ 売上構成
  - ・ 業績概況
  - ・ 財務状況
- ※ 2024年12月期第4四半期より、連結決算に移行  
13P参照

## 新規事業

11P

- ・ ロボット事業 11P  
株式交換により100%子会社化  
事業計画
- ・ ペロブスカイト太陽電池事業紹介 15P
- ・ 石英事業 21P  
UNOクォーツを吸収分割によりグループ化  
神栖工場開設
- ・ LARK事業 29P



# 会社概要

社名	株式会社倉元製作所
証券コード	5216（東京証券取引所スタンダード市場）
代表者	代表取締役社長 渡邊 敏行
本店所在地	〒989-5508 宮城県栗原市若柳武鎗字花水前1-1
電話・FAX	電話：0228-32-5111 FAX:0228-32-6451
ホームページ	<a href="https://www.kuramoto.co.jp">https://www.kuramoto.co.jp</a>
設立	1980年8月29日（創業1975年10月13日）
資本金	8,000万円
決算期	12月
社員数	84名（2023年12月末）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 基板事業：フラットパネル（FPD）用ガラス基板の開発、製造ならびに販売</li><li>■ 半導体加工事業（SiCウェハ、石英・SiC パーツの研削・研磨加工）</li><li>■ 次世代半導体パッケージ向けのTGV(Through Glass Via：ガラス貫通電極)・TSV （Through silicon via：シリコン貫通電極）関連製品の製造・販売</li><li>■ DXツールの販売事業</li><li>■ 再生可能エネルギー関連事業</li><li>■ 不動産賃貸事業</li><li>■ AIロボット事業（グループ）</li></ul>

# マネジメントチーム



代表取締役社長 渡邊敏行

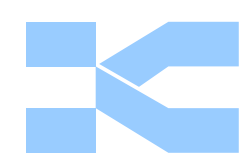
人生は波瀾万丈、山あり谷あり、私はどんな時でも夢を追い続けてきました。

中国広州中医薬大学→中華街で洗い場→慶應義塾大学→武田薬品工業株式会社→中華料理店でホール→29店舗経営→投資事業→半導体事業と、一見関連性がありません。全部自分の中で新しいことをチャレンジしようと精一杯頑張ってきました。ほぼ休みなしのアルバイト生活、風呂なしトイレなし四畳半アパートでの受験生活、年収920万辞めて時給900円の起業準備等等、いつもどん底から這い上がる気持ちでドキドキワクワクしています。

倉元でのチャレンジも全く同じ気持ちです。日本のものづくり精神は世界的なブランドです。その背景は、サムライスピリッツと先人達の努力とプライドです。しかしながら激しくて厳しい国際競争の中で判断が遅れたり、大胆な投資が出来なかったりして、日本流の曖昧さで問題を先送りして来た面も多分にありました。

今、複雑な政治環境の中、サプライチェーンが再構築され、「Made in Japan」が再び注目され栄光を取り戻す機運となっています。我々はこの波に乗り、工場DX化を積極的に取り入れ仕事の効率を世界最高水準にまで高め、世界最先端の技術を活用し、日本人の勤勉さ、愚直さ、優しさをプラスして、新製品を開発しようと思っています。

新製品の可能性はいろいろあります。ito成膜やガラス、半導体、石英の研磨研削で磨き上げた技術、新しい事業等々、チャレンジする不屈の精神、超スピードで対応するお客様への思いを抱き、これから飛躍を目指す倉元のプロ集団として「全員営業、全員IT」を目指し時代の半歩先を行きます。お客様、投資家の皆様これからもご支援の程よろしくお願い申し上げます。



# マネジメントチーム



取締役（財務担当） 小峰衛



取締役 星彰治



社外取締役 本郷邦夫



執行役員 生産事業部  
総括本部長 CPO 宮澤浩二



執行役員 管理・新規事業部  
総括本部長 久保田徹



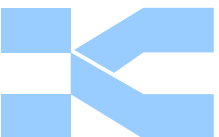
常勤監査役 菅原信次



監査役 北井徹



監査役 片岡義隆



# 倉元製作所 技術開発の歴史

**新規事業**  
 ・既存の研磨、切断、成膜技術を活用した新規事業

**ガラス研磨・切断技術**

- ・液晶用ディスプレイガラス研磨の分野では自社製研磨加工機による世界最高レベルの高平坦度を実現
- ・液晶ディスプレイガラス基板の切断では、自社開発の自動切断機により、高加工品質(高寸法精度と直角度)と高生産性を実現

SiO<sub>2</sub>アンダーコート加工事業を開始  
 TFT液晶ガラス加工事業を開始

STN液晶用ガラス加工事業を開始

創業  
 1975年

1985年

1975年

1994年

1995年  
 現東京証券取引所スタンダード市場に株式上場

2001年

2010年

2012年

2018年

2022~2023年

2024年

透明導電膜 (ITO膜) 成膜事業を開始

カラーフィルタ上ITO成膜加工事業を開始

タッチパネル用成膜事業開始  
 超薄型LCDパネルの研磨加工事業開始

SiC ウェハや SiC パーツの研削・研磨加工を開始

Si ウェハ再生事業開始

DXツール LARK販売事業開始  
 TGV\* 事業を開始  
\*TGV(Through Glass Via : ガラス貫通電極)

- ◆ペロブスカイト太陽電池事業に参入
- ◆アイウズロボティクス社株式交換による完全子会社化
- ◆UNOクォーツ吸収分割により石英火加工事業承継

有機薄膜太陽電池研究開発開始

**成膜技術**

- ・当社のITO膜は量産ベースで比抵抗値 $1.2 \times 10^{-4} \Omega \cdot \text{cm}$ を達成し量産品では業界最高水準。
- ・有機ELのITO膜上の積層において、これまでの液晶事業で培った低抵抗ITO成膜技術と高精度研磨技術の融合により、陽極のITO膜の電気・光学特性に殆ど影響を与えずに平滑化ならびに欠陥除去加工を実現。

**有機薄膜太陽電池研究**

- ・金沢大学と共同で開発した逆型有機薄膜太陽電池 パネル製作技術 (有機薄膜太陽電池の正孔輸送層技術等)
- ・産業技術総合研究所と共同で実施した逆型有機薄膜太陽電池の耐久性・信頼性評価とその劣化メカニズムの解析

# 事業拠点



本社・若柳工場  
敷地面積14.6万㎡

〒989-5508

宮城県栗原市若柳武鎗字花水前1-1

TEL 0228-32-5111

FAX 0228-32-6451

花泉工場  
敷地面積3.9万㎡

〒029-3207

岩手県一関市花泉町油島字内別当19-1

TEL 0191-82-5110(代)

FAX 0191-82-5100



神栖工場  
敷地面積2,600㎡

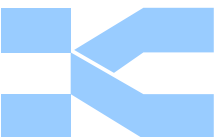
〒314-0112

茨城県神栖市知手中央十丁目6番8号

TEL 0299-97-1216(代)

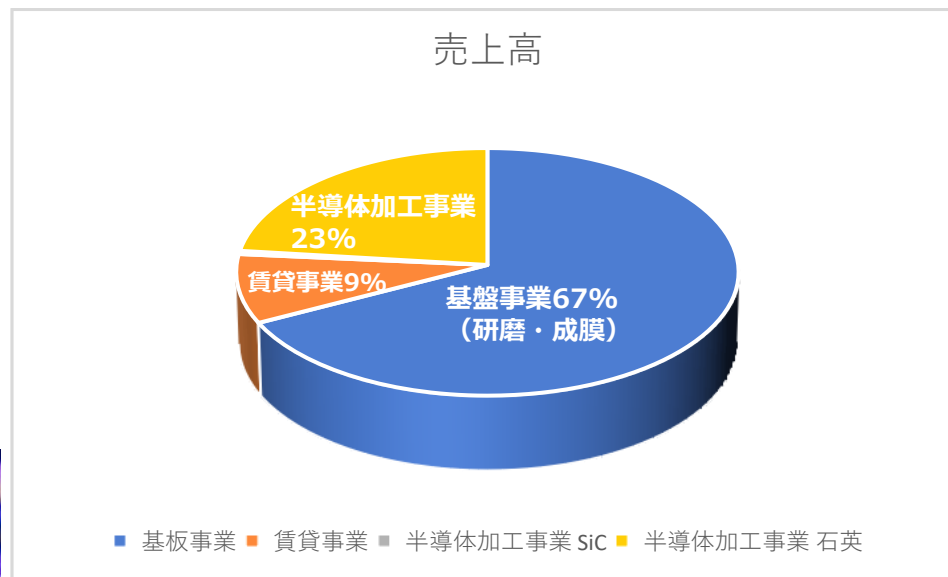
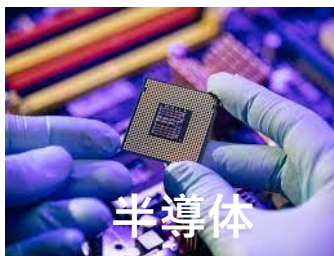
FAX 0299-90-5666





# 2024年12月期 第3四半期売上構成

## 2024年12月期（第3四半期累計）売上構成





## <第3四半期（累計） 全社売上高・利益>

- ◆ 売上高は、前年同期比93%増
- ◆ 営業利益、経常利益、四半期当期利益ともに黒字を確保

金額単位：百万円	2023年12月期 第3四半期	2024年12月期 第3四半期	前期比	前期比 増減率	2024年12月期 通期予想 (修正後)
売上高	446	862	416	93.3%	1,160
営業利益	-314	41	355	-	30
経常利益	-302	4	306	-	-20
四半期当期利益	-303	15	318	-	0

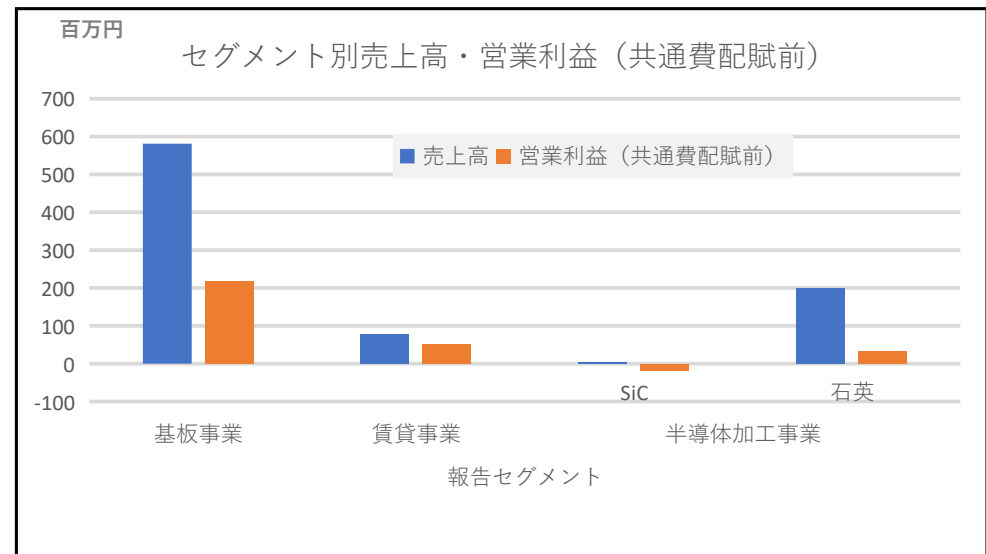
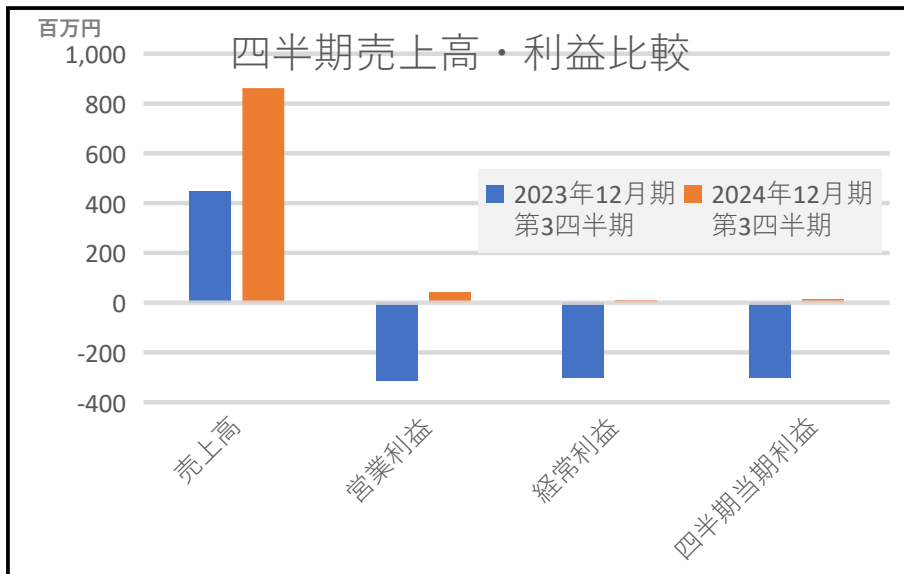
## <第3四半期（累計） セグメント別売上高・営業利益>

- ◆ 基板事業（研磨研削・成膜）は、売上高が全体の67%、営業利益も黒字を確保。
- ◆ 半導体加工事業は、石英の営業利益（共通費配賦前）は黒字を確保したものの、共通費配賦後で営業損失を計上。

金額単位：百万円	報告セグメント				共通費 *2	合計
	基板事業*1 (研削研磨・成膜)	賃貸事業	半導体加工事業			
			SiC	石英		
売上高	581	77	4	200	0	862
(構成比)	(67.4%)	(9.0%)	(0.4%)	(23.2%)		(100.0%)
営業利益（共通費配賦前）	218	50	-18	34	-243	41
(売上高利益率)	(37.5%)	(65.1%)	-(498.3%)	(16.9%)		
営業利益（共通費配賦後）	55	29	-19	-24	-	41

\*1 基板事業は、研削研磨事業と成膜事業があり、成膜事業は事業撤退しますが、研削研磨事業は継続します。

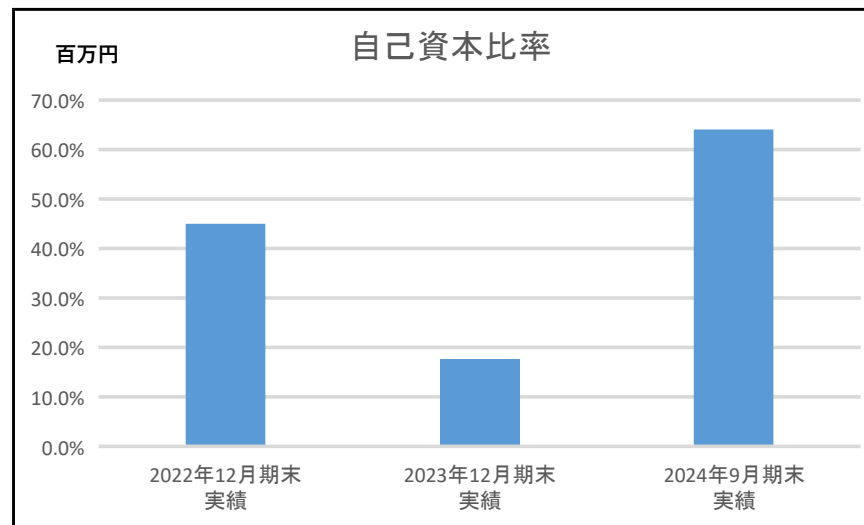
\*2 共通費は、各セグメントに帰属しない全社費用です。



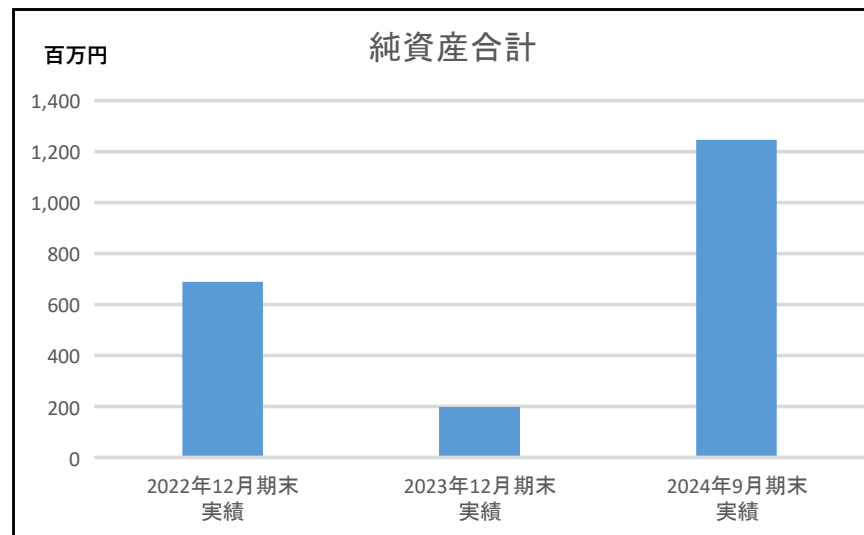
# 財務状況の実績推移 2022年～2024年

【貸借対照表】

単位:百万円	2022年 12月期	2023年 12月期	2024年 12月期 第3四半期末
資本の部			
流動資産	469	264	1,127
現金預金	94	52	482
受取手形及び売掛金	221	109	157
商品、製品及び原材料	54	82	138
その他	100	22	350
固定資産	1,062	853	818
有形固定資産	1,061	851	816
投資その他の資産	1	2	2
資産合計	1,531	1,117	1,945
負債・純資産の部			
流動負債	299	548	371
支払手形及び買掛金	25	21	44
有利子負債	160	294	189
その他	113	233	138
固定負債	543	371	327
長期借入金	433	280	250
その他	110	91	77
負債合計	842	920	699
純資産	689	197	1,246
負債・純資産合計	1,531	1,117	1,945



◆ 2023年末は当期損失555百万円の赤字を計上したことから低下したが、当四半期末では改善。



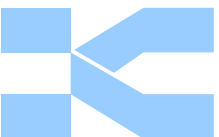
◆ 2023年末は当期損失555百万円の赤字を計上したことから減少したが、当四半期末では、最終黒字と株式の発行等により改善。

# ロボット事業

---



株式会社倉元製作所  
**KURAMOTO**



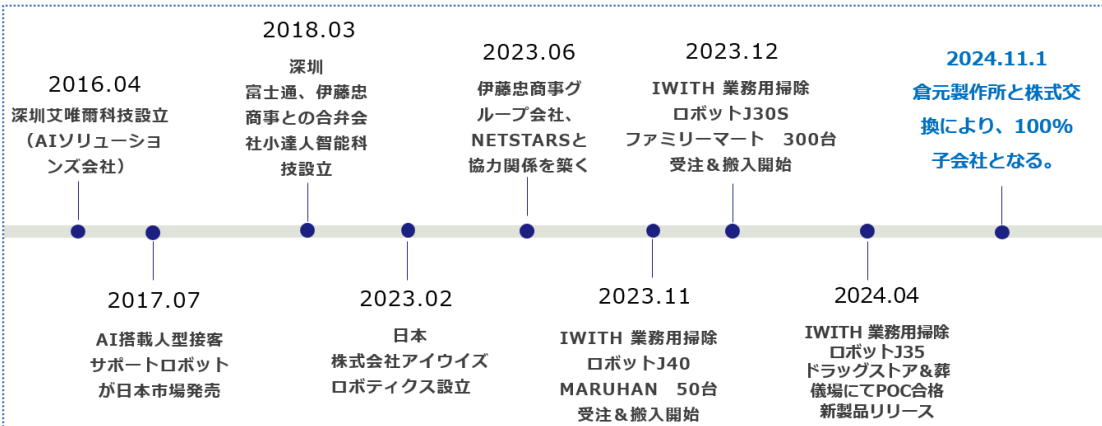
# ロボット事業

## 株式交換によりアイウィズロボティクス社 (IWR) を100%子会社化

2024年12月期 (当期) より連結予定



### 沿革



### 製品



### 競争優位性

市場調査—競争比較

ブランド	IWITH J30S	IWITH J35S	IWITH J40	S社	S社	A社
製品図						
掃きと吸塵	○	○	○	○	○	×
床磨き	×	○	○	×	○	○
モップ拭き	○	○ (水なしモップ拭きができる)	○	×	○	×
セルフクリーニング	○	○	○	×	×	×
全自動マップ作成	○	○	○	×	○	×
自動水交換	×	×	○	×	○	×
APPコントロール	○	○	○	×	○	○
商品陳列と広告機能	○	○	○	×	×	×
水タンク仕様	外し可能	外し可能	外し可能	水タンク無し	外さない、不便	外さない、不便

### 【株式交換の目的】

- IWRは、その前身となる会社である、AIによる各種ソリューション提供を目的とした深圳市艾唯爾科技有限公司を2016年4月に中国深圳市に設立
- 2018年3月、深圳市艾唯爾科技有限公司、伊藤忠商事株式会社及び富士通コネクテッドテクノロジーズ株式会社 (現FCNT株式会社) との3社で中国でのAIソリューション事業を行う目的で、合併会社小達人智能科技有限公司設立
- 2023年2月に、業務用お掃除ロボットの日本での販売及び日本顧客向けの製品開発 (カスタマイズ) 等のマーケティング業務を行うことを目的にIWR社を設立
- 現在の日本の労働力不足・人件費高騰の経済環境を背景に、AIを活用した全自動の業務用お掃除ロボットを2023年6月より日本市場に投入し販売を開始
- これまでにコンビニ、ドラッグストア、オフィスに311台、清掃会社に32台、遊技場、ビルメンテナンス会社に53台の納入実績
- 2024年8月、大手ビルメンテナンス会社とのエレベータ連携の実証試験にも合格、お掃除ロボットが無人でエレベータを操作し各階を移動して清掃を完了させることで、ビル1棟まるごと全自動清掃が可能となる。
- 今後、こうしたエレベータ連携を含め、日本市場でのさらなる市場拡大が期待できることから、2024年11月1日、株式交換により当社の100%子会社化

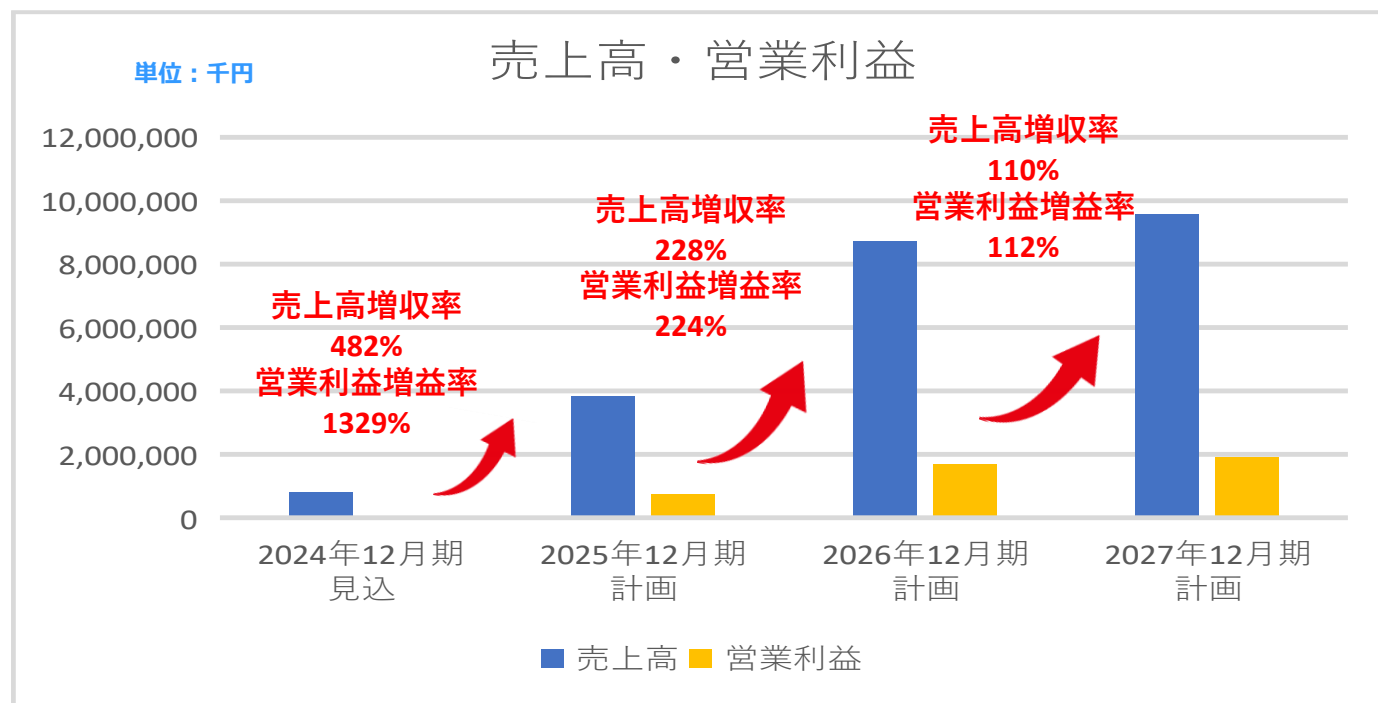
# ロボット事業 事業計画（100%子会社 アイウイズロボティクス社の事業計画）

2024年12月期第4四半期より連結開始

## アイウイズロボティクス事業計画（単体）

単位：千円

	2024年12月期 見込	2025年12月期 計画	2026年12月期 計画	2027年12月期 計画
売上高	792,154	3,821,572	8,709,386	9,581,065
売上原価	526,710	2,621,741	6,284,759	6,898,366
売上総利益	265,444	1,199,831	2,424,627	2,682,699
販売管理費	208,701	445,477	735,574	787,641
営業利益	56,743	754,354	1,689,053	1,895,058

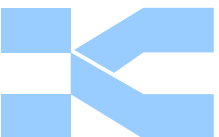


### 【計画の根拠等】

- 2024年8月に既に業務用ロボットを積極的に導入しているコンビニチェーン店から追加受注が見込まれ、既に代理店を通じて部材の先行手配注文書を得たこと
- 大手ビルメンテナンス会社とのエレベータ連携の実証試験にも合格し、お掃除ロボットが無人でエレベータを操作し各階を移動して清掃を完了させることで、ビル1棟まるごと全自動清掃が可能となり、今後、ビルメンテナンス会社より、具体的な受注が見込めること
- 今後、導入台数の増加にともない、消耗品や保守サービス関連の売り上げ増が見込めること
- 現在、顧客ニーズに基づいて新製品の開発も進めており、2026年には市場投入を見込んでいること

### 【ご留意事項】

- ◆ 2024年12月期の見込数値につきましては、公認会計士または監査法人による会計監査を受けておりません。
- ◆ 当社は、2024年12月期第4四半期より、連結決算に移行いたします。なお、左記の数値は、子会社の個別決算の数値で、連結にともなうのれん償却費は計上されておりません。実際に連結する場合は、左記の数値からのれん償却費を控除した金額が連結営業利益として計上されます。



# トイレ掃除ロボットT1

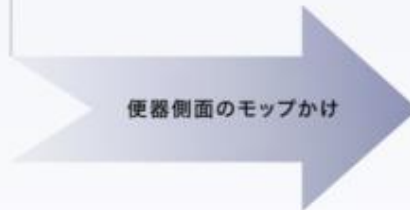
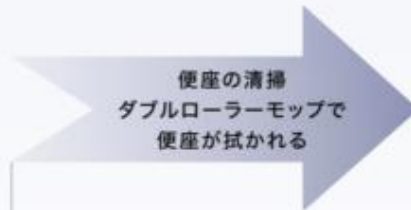
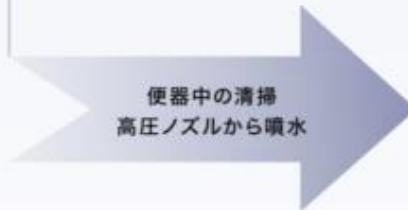


## 掃除方法



### 便器とセットする

清掃員より本清掃ロボットを便器にセットし、一度便器の水をながす。



ローラーモップのセルフクリーニング



### 清掃完了

清掃完了するとアナウンスで清掃員に通知される。清掃員がロボットを便器から外すときに便器側面が拭かれる。

高精度AI  
センサー  
搭載!



**国内最大級のビルメンテナンス専門展示会**

**「ビルメンヒューマンフェア&クリーンEXPO2024」出展**

**2024年11月20日(水)から22日(金)の3日間、東京ビックサイト**

# ペロブスカイト太陽電池事業

---

株式会社倉元製作所  
**KURAMOTO**

# ペロブスカイト太陽電池とは



## 【設置場所】

軽量、薄型、柔軟性、低製造コスト、主要材料の国内生産量豊富などの特徴により、**これまで設置できなかった場所**での太陽光発電が可能。

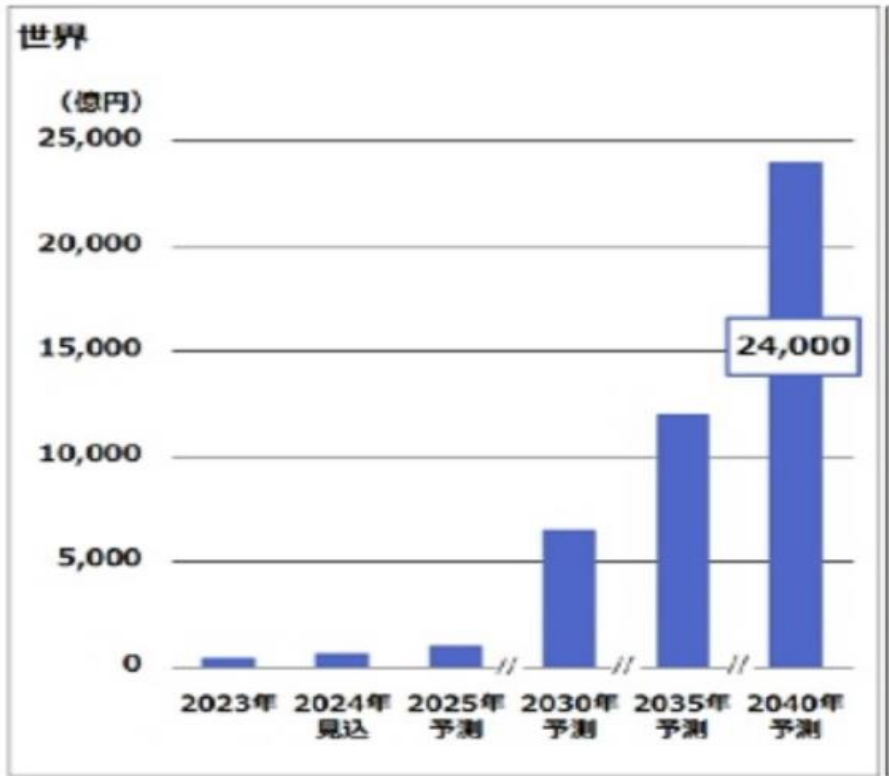
### <設置例>

- 低耐荷重の工場、倉庫、事業所の屋根
- 建物壁面 (ビル、商業施設、公共施設、住宅)
- 駐車場、EVステーション、自動車
- 高速道路防音壁、街路灯
- 自動販売機
- 農業 (ビニールハウス等)、アウトドア (テント)、防災施設など



# 市場規模 & 政府支援策の拡充

ペロブスカイト太陽電池の世界市場、2040年に2兆4000億円



ペロブスカイト太陽電池・世界市場と国内市場の推移  
(出所：富士経済)

2023年に約630億円だったペロブスカイト太陽電池の世界市場は2040年には2.4兆円に膨らむ見通し。

## 量産技術の確立

- 【GI基金によるR&D・社会実装加速】
- 「次世代型太陽電池の開発プロジェクト」(498億円)を通じて、**2030年の社会実装**を目指す。
  - 本年8月、WGを開催し、**支援の拡充(498億円→648億円)**について合意。
  - 技術開発に加えて、**導入が期待される様々なシチュエーションにおけるフィールド実証を行うべく、今年度中に、③次世代型太陽電池実証事業を公募開始予定。**

出所：経済産業省HP

## 生産体制整備

- 【サプライチェーン構築】
- **2030年までの早期にGW級の量産体制構築**に取り組む。
  - 令和6年度予算案として、**GXサプライチェーン構築支援事業(R6年度548億円(国庫債務負担行為含め総額4,212億円))**を計上。
  - **Tier1に限らず、Tier2以下も含めたサプライチェーン全体に対する生産体制整備支援を実施**することで、高い産業競争力を有する形で国内製造サプライチェーンの確立を目指す。

## 需要の創出

- 【需要創出に向けて想定される取組】
- **導入目標の策定**(特に公共施設は先行検討)
  - **FIT・FIP制度における導入促進策や大量生産等による価格低減目標を前提とした需要支援策**などの検討
  - 太陽電池の**製造からリサイクル・廃棄**までを見据えた**ビジネスモデルの普及・制度設計やルール作り**
  - 諸外国とも連携した**耐久性などの評価手法等の国際標準化**
  - アジア、欧米など、**有志国と連携した海外市場獲得**

## 経済産業省GXサプライチェーン 2024年度補助金決定

予算額	421,200,000,000円(令和10年度までの国庫債務負担含む)
補助率	原則 大企業 1/3以内 中小企業等 1/2以内
事業期間	令和6年9月17日～令和11年3月31日
補助対象要件	1) ペロブスカイト太陽電池 ・完成品(ペロブスカイト結晶構造の発電層を有するフィルム型の太陽電池) ・レーザー加工装置 2) 浮体式等洋上風力発電設備 ・ブレード※、タワー、ナセル、係留索・係留チェーン、アンカー、浮体基礎

予算総額  
4,212億円

## 【事業環境】

## （社会面）

- 2050年カーボンニュートラルに向けて再生可能エネルギー（以下「再エネ」）供給を拡大させることは不可欠である一方、従来の再生可能エネルギーの主力である、シリコン型太陽光パネルの設置の問題点顕在化（設置場所の不足、[環境破壊](#)、系統連携問題など）
- 既に、[日本の太陽光発電の国土面積あたりの日本の太陽光導入容量は主要国の中で最大級](#)（資源エネルギー庁）で飽和状態。
- ペロブスカイト太陽電池は、[日本の再エネ拡大の切り札](#)（資源エネルギー庁）として位置づけ。

## （経済面）

- 太陽光パネルはの生産は、[中国が世界の8割](#)を供給しており、エネルギー安全保障上きわめて高価値であるにもかかわらず、国内生産は減少の一途である。

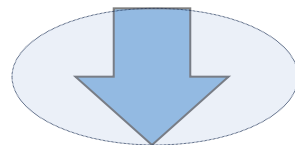
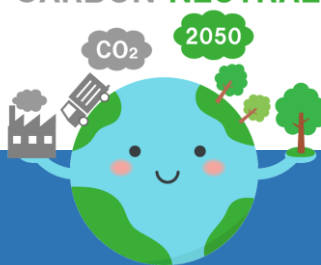
## （政策面）

- 2021年10月に閣議決定された[第6次エネルギー基本計画](#)（経済産業省）では、2022年21.7%であった**再エネ比率を2030年に36～38%**（うち太陽光20～22%）を目指すこととされ、量産技術確立、生産体制整備、需要の創出のための諸施策が実施されている。

## （技術面）

- 量産製造技術（フィルム基材、塗布材料開発等）については、日進月歩で技術革新がなされており、大型化、耐久性の問題もクリアしつつある。

CARBON NEUTRAL



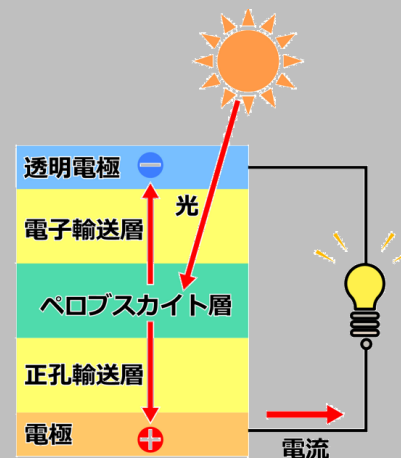
## 【経営ビジョン】

◆ カーボンニュートラル実現と社会のニーズに応えるために、ペロブスカイト太陽電池を迅速に日本に普及させること

## 【当社の保有技術】

### 1) 有機薄膜太陽電池技術

- ・ **金沢大学**と共同で開発した逆型有機薄膜太陽電池パネル製作技術（有機薄膜太陽電池の正孔輸送層技術等）
- ・ **産業技術総合研究所**と共同で実施した逆型有機薄膜太陽電池の耐久性・信頼性評価とその劣化メカニズムの解析



### 2) ITO成膜技術

- ・ ETFE基板最適化技術、陰極成膜技術、背面電極金属膜成膜技術、nmレベルの膜厚技術
- ・ 低抵抗ITO成膜技術と高精度研磨技術を融合させた陽極ITO膜の平滑化と欠陥除去加工技術
- ・ 樹脂基盤ITO成膜供給実績（株）東レ、帝人デュポンフィルム（株）、三菱エンジニアリングプラスチック（株）他

金沢大学理工研究域  
サステナブルエネルギー研究センター

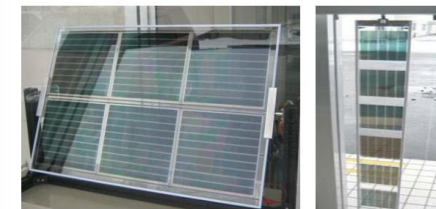


逆型有機薄膜太陽電池の実証実験  
栗駒高原駅バス停通路屋根  
金沢大学（株）、倉元製作所、（株）イデアルスター

独立行政法人 産業技術総合研究所

#### 倉元製作所のシーズ

- ・ 実証段階にある逆型太陽電池パネルの製造



有機薄膜太陽電池試作サンプル（左：パネル型、右：ブレード型）

試作パネル開発

信頼性評価試験の実施  
技術指導

#### 産総研支援方法

- ・ 同社の有機薄膜太陽電池サンプルの屋内加速試験および屋外曝露試験を実施
- ・ 試験データによる研究者間での劣化メカニズムの解明に向けた検討

# 対象市場と製品

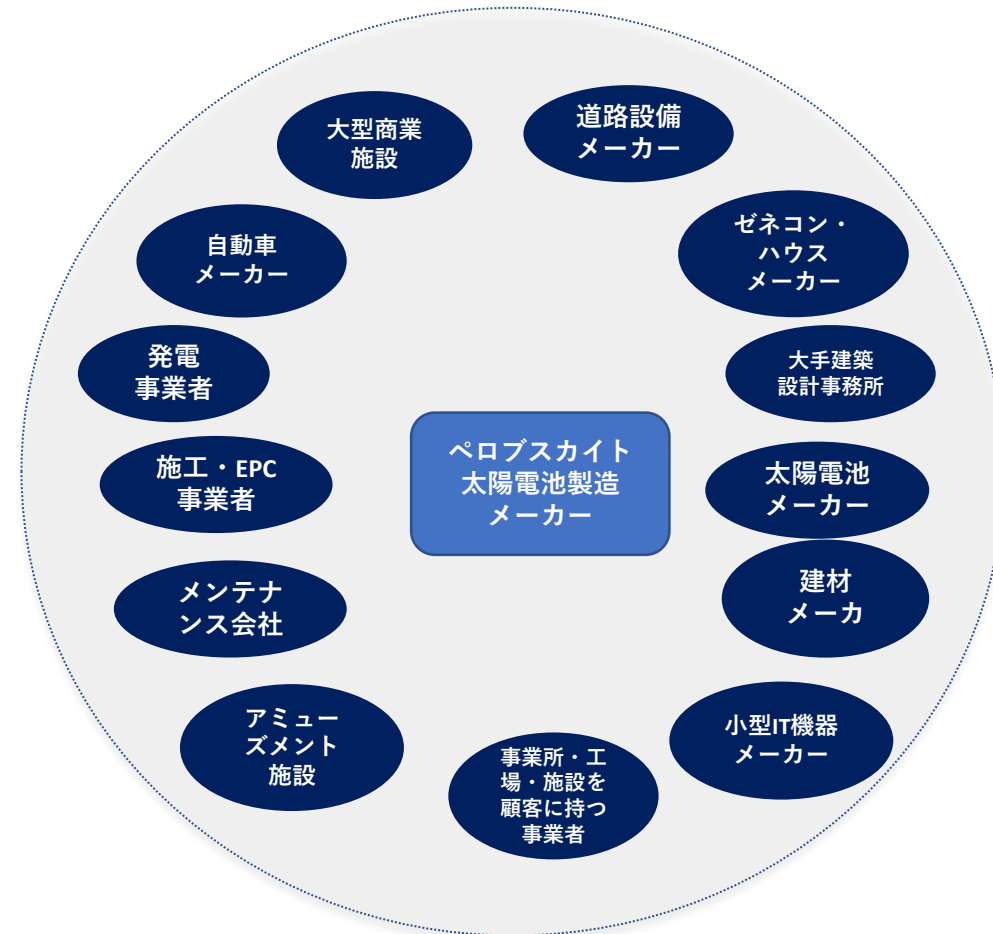
## ① 対象市場詳細

### <B to C>

- ・ 個人住宅
- ・ マンションベランダ
- ・ アウトドア・キャンプ
- ・ 携帯用充電器（小型IoTデバイス向け）

### <B to B>

- ・ 公共事業 国、地方自治体等
- ・ 自動車関係。駐車場、急速充電器等。
- ・ 高速道路防音壁
- ・ 街路灯（独立電源用途）
- ・ 既存結晶系パネル設置不可（低耐荷重）箇所（工場屋根、倉庫等）
- ・ 自動販売機
- ・ 農業（ビニールハウス等）
- ・ 災害時の非常用電源
- ・ 小規模店舗（コンビニ等）
- ・ 耐荷重の小さい工場屋根
- ・ 建物壁面
- ・ EVステーション連携、自動車搭載



ペロブスカイト太陽電池の  
各業界大手企業との提携

## ② 対象製品

- ・ フィルム型
- ・ 都市型再エネ・蓄電システム

# 石英事業

---



株式会社倉元製作所  
**KURAMOTO**

# UNOクォーツを吸収分割によりグループ化 神栖工場開設

神栖工場 2024年10月29日より操業開始

有限会社UNOクォーツの全事業を吸収分割により承継



神栖工場  
敷地面積2,600㎡



## 【事業承継の目的】

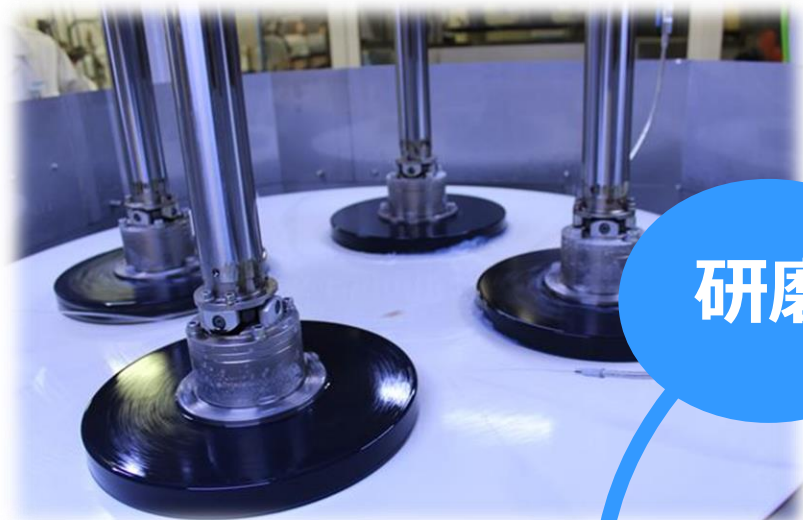
- UNOクォーツ社は、半導体製造装置向けの石英パーツ部品の火加工事業を**20年の実績**
- 当社の新規参入した半導体製造装置向けの**石英パーツ部品の火加工の市場が拡大傾向**にあることからUNOクォーツから火加工事業を吸収分割により承継し、当社の事業として開始
- 石英火加工事業は、**半導体製造業界**や光学機器製造業界、医療機器製造業界などで利用される部品や素材に活用される
- UNOクォーツの強みは、既に火加工に必要な設備（電気炉、大型旋盤、大型研削機、ガス貯蔵施設等）を保有しており、**長年にわたり蓄積された火加工技術**により、高い品質の半導体製造装置向けの石英パーツ部品を供給可能
- UNOクォーツの火加工設備及び火加工技術を当社に取り入れることにより、当社内における**一貫した自社生産体制**の実現により、石英の火加工部分を内製化し、**大手半導体製造装置メーカーの指定ベンダー**を目指す。

# 石英の特長と用途



石英の優れた特性から、光ファイバーや光学フィルター、実験用理化学機器、光学レンズ、半導体製造装置など、あらゆる分野で使用されております。

# 石英加工プロセス



研磨



研削

溶接

サンド  
ブラスト



洗浄



検査

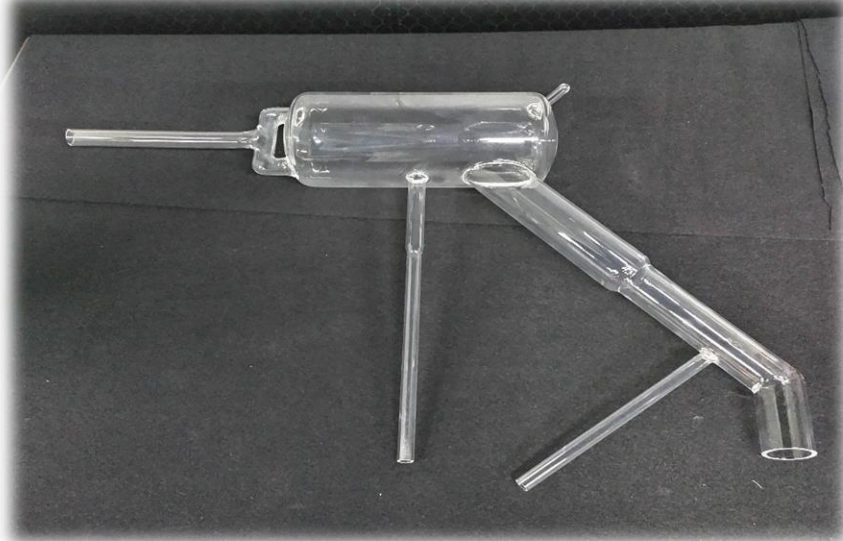
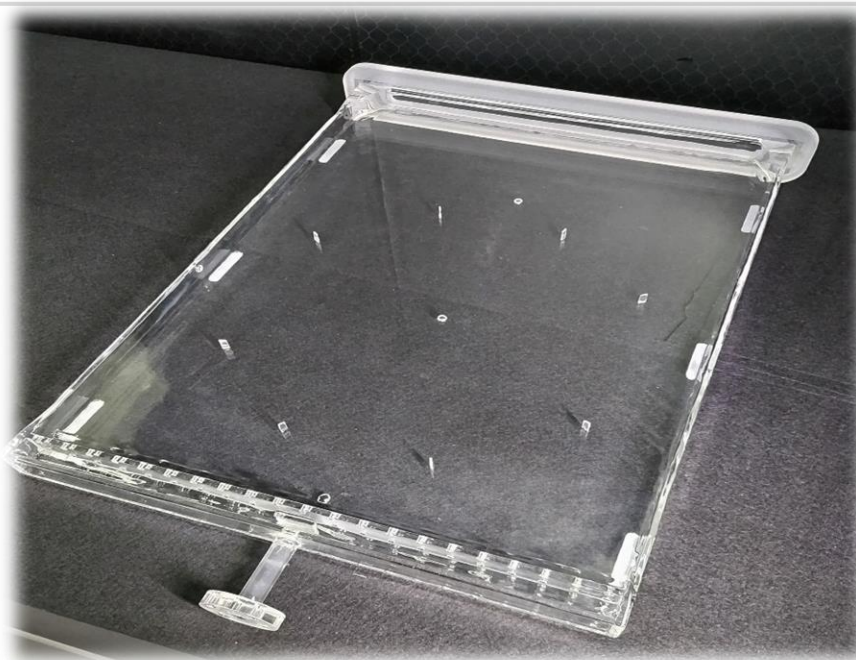


測定





# 石英加工品実績例



## 研削・研磨・サンドブラスト

設備名称	台数	仕様（ワークサイズなど）
マシニングセンター	3	ストローク：700mm(X)×400mm(Y)×400mm(Z) 主軸最高回転速度：12,000min-1
立型ロータリー研削盤	1	ワーク最大径：Φ700mm ワーク最大厚み：370mm
汎用旋盤	3	ワーク最大径：Φ400mm
片面研磨機 TypeVI	10	～550mm×670mm
片面研磨機 TypeVII	27	～730mm×920mm
片面4軸研磨機	2	～Φ450mm
両面研磨機 16B（ラップ）	1	～Φ300mm
両面研磨機 16B（ポリッシュ）	1	～Φ300mm
両面研磨機 22B（ラップ）	1	～Φ450mm
サンドブラスター	1	～800mm×1,000mm×1,000mm



マシニングセンター



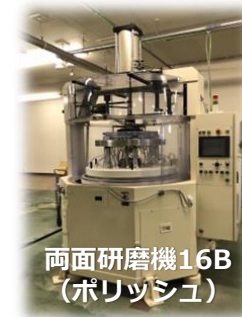
立型ロータリー研削盤



汎用旋盤



片面4軸研磨機

両面研磨機16B  
(ポリッシュ)

# 溶接・組立て

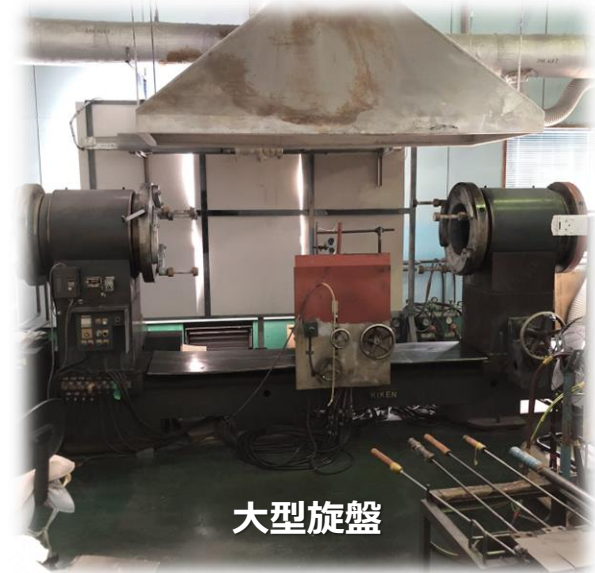
設備名称	台数	仕様（ワークサイズなど）
石英バーナー	10	各種口径
大型旋盤	1	ワークサイズ：～Φ350mm×2,500mm 金属バーナー：Φ40mm×8台
中型旋盤	1	ワークサイズ：～Φ200mm×1,500mm 金属バーナー：Φ40×2本、25×2本
電気炉	3	ワークサイズ：～600mm×600mm×2,000mm



石英バーナー



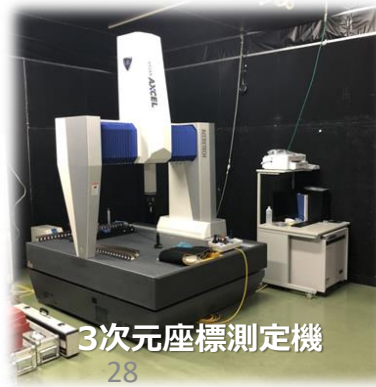
中型旋盤



大型旋盤

## 洗淨・測定・検査

設備名称	台数	仕様（ワークサイズなど）
HF洗淨槽	1	洗淨槽内寸：500mm(D)×1600mm(W)×550mm(H)
超音波洗淨機	1	ワーク最大径：Φ400mm 第1層：超純水/超音波 第2層：超純水/超音波 第3層：熱風ブロー
3次元座標測定機	1	測定範囲：850mm(X)×1000mm(Y)×600MM(Z)
表面粗さ測定機	1	Z方向測定範囲：-210～+160μm X方向駆動範囲：～16mm
クリーンルーム検査室	1	クリーンルーム：クラス10,000 検査ブース：クラス1,000

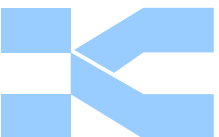


# LARK事業

---



株式会社倉元製作所  
**KURAMOTO**




## Larkの特徴




**ツールがバラバラ**

情報が分断されがち  
どこに何があるかわからない



**ツールが多すぎる**

用途別にツールが必要  
ツールが多くなり、  
コストが莫大に




**データ分析できない**

現場の現状が把握できない  
店舗の売上げがわからない




**オールインワン**

チャットを起点に全てのツールが繋がって、仕事がスムーズに。

**圧倒的なコスト削減**

Docs、ビデオ会議、承認と様々な機能がオールインワン。  
圧倒的なコスト削減になります。




**データを見える化**

売上データや、品質管理、勤務状況など、経営情報全をリアルタイムで見える化可能。

**仕事はかどる  
スーパーアプリ**

無料で使ってみる →

★★★★★ BOJIL



## レカム社との業務提携 2024年10月1日締結

- ①レカム社との販売代理店契約の締結
- ②「Lark」ユーザー企業へのレカム社のソリューションサービスの紹介
- ③両社のノウハウを活かした新たなサービス開発の検討

名称	レカム株式会社(RECOMM CO.,LTD.) 東京証券取引所 スタンダード 3323
所在地	東京都渋谷区代々木三丁目2 5 番 3 号 あいおいニッセイ同和損保新宿ビル1 2 階
代表者	代表取締役社長 伊藤 秀博
事業内容 (グループ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カーボンニュートラルソリューション</li> <li>・コストダウンソリューション</li> <li>・DX化推進ソリューション</li> <li>・サイバーセキュリティソリューション</li> <li>・感染症対策ソリューション</li> </ul>
資本金	2,447百万円
URL	<a href="https://www.recomm.co.jp/">https://www.recomm.co.jp/</a>

# CREATING THE FUTURE

ビジネスを  
通じて

半歩先行く技術と商品力で未来を創る

ビジョン  
目指すところ

世界の最先端技術を取り入れ  
日本のモノづくりの原点に回帰し、ヒト・モノ・カネの  
良い循環を生み出し、未来に向けて進化する

組織の理念は

全社員が  
情熱を持って

全社一丸となれる組  
織の仕組を持つ

モノづくりの  
プロ集団